

平成22年度 決算特集号



H23.10.6 給食を味わう一宮西小学校の児童 関連記事6ページ

平成22年度決算が9月議会で承認されました。□

一般会計の決算内容を中心に「決算特集号」として紹介します。

CONTENTS

| | |
|--------------------|-------|
| 決算の概要について | 2~5 |
| 合併特例債を活用した事業について | 6~7 |
| ふえふき家の家計簿から | 8~9 |
| 市の基金(貯金)と市債(借金)の状況 | 10~11 |
| 財政健全化判断比率のお知らせ | 12 |

平成22年度

決算概要



平成22年度一般会計決算は、歳入・歳出とも合併後最高額となり、歳入総額335億1600万円、歳出総額314億7100万円となりました。平成22年度の決算の特徴として歳入は、地方交付税並びに地方交付税の替わりである臨時財政対策債の大幅な増加があげられます。

また歳出は、子ども手当制度の導入や国の経済対策として行われた地域活性化交付金事業の実施による増加があげられます。歳入歳出差引額は20億4500万円となり、翌年度へ繰り越した事業への財源を除いた実質収支は、13億9300万円と大幅な黒字となりました。さらに前年度の繰越金及び基金の積立で、取り崩しなどを考慮した実質単年度収支は、7億8400万円の黒字決算となりました。

引き続き、本市は健全財政を維持しています。

歳入

歳入総額335億円

前年度比 31億2000万円増

歳入の決算状況を科目ごとに見ていきます。

地方交付税
決算額は92億9800万円
前年度より9億3600万円増加しました。

市税
決算額は90億4700万円
前年度より8億900万円増加しました。

平成22年度は都市計画税の課税を行わなかったものの、景気の回復や収納率の向上が図られたことにより90億円台を回復しました。

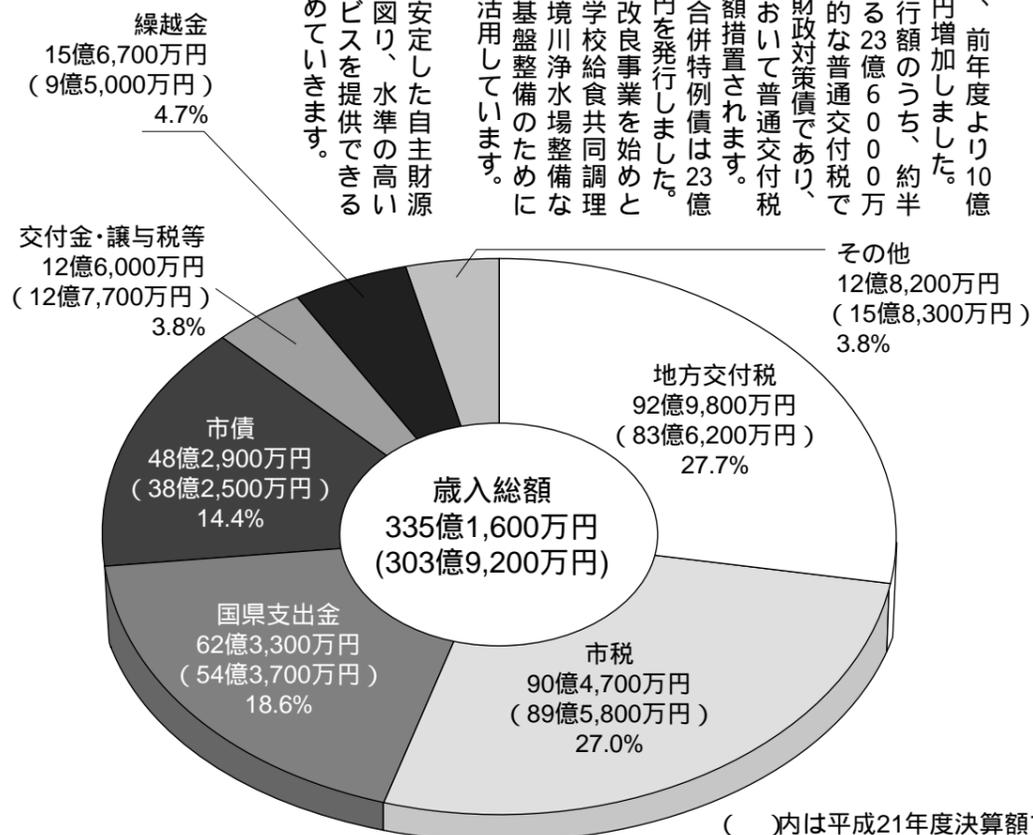
国県支出金
決算額は62億3300万円
前年度より7億9600万円増加しました。

円となり、前年度より10億400万円増加しました。

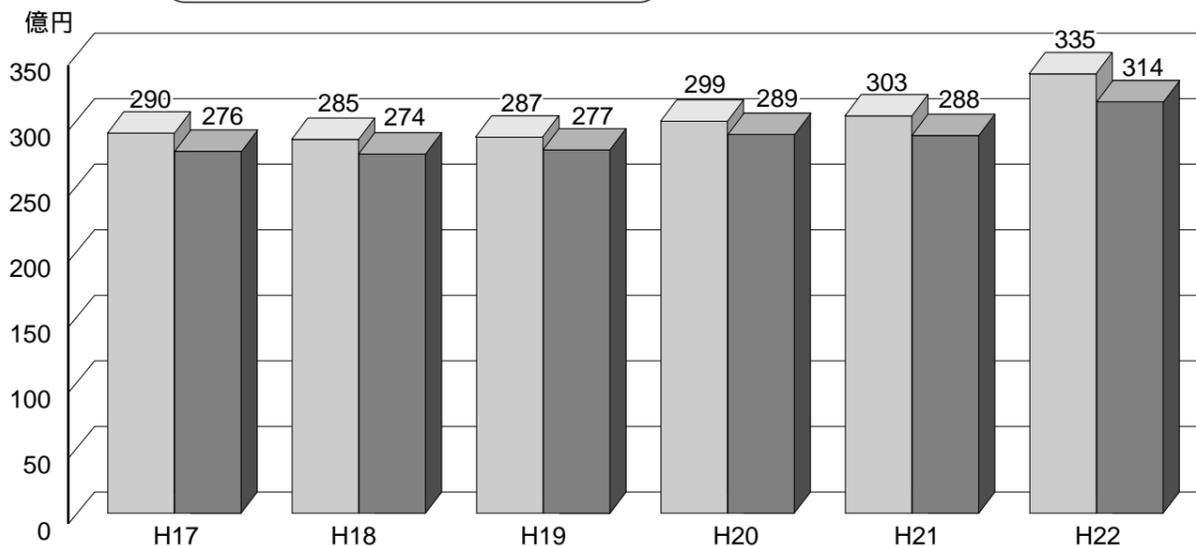
市債発行額のうち、約半分にあたる23億6000万円が実質的な普通交付税である臨時財政対策債であり、後年度において普通交付税により全額措置されます。

また、合併特例債は23億800万円を発行しました。道路新設改良事業を始めとし、一宮学校給食共同調理場建設や境川浄水場整備など新市の基盤整備のために積極的に活用しています。

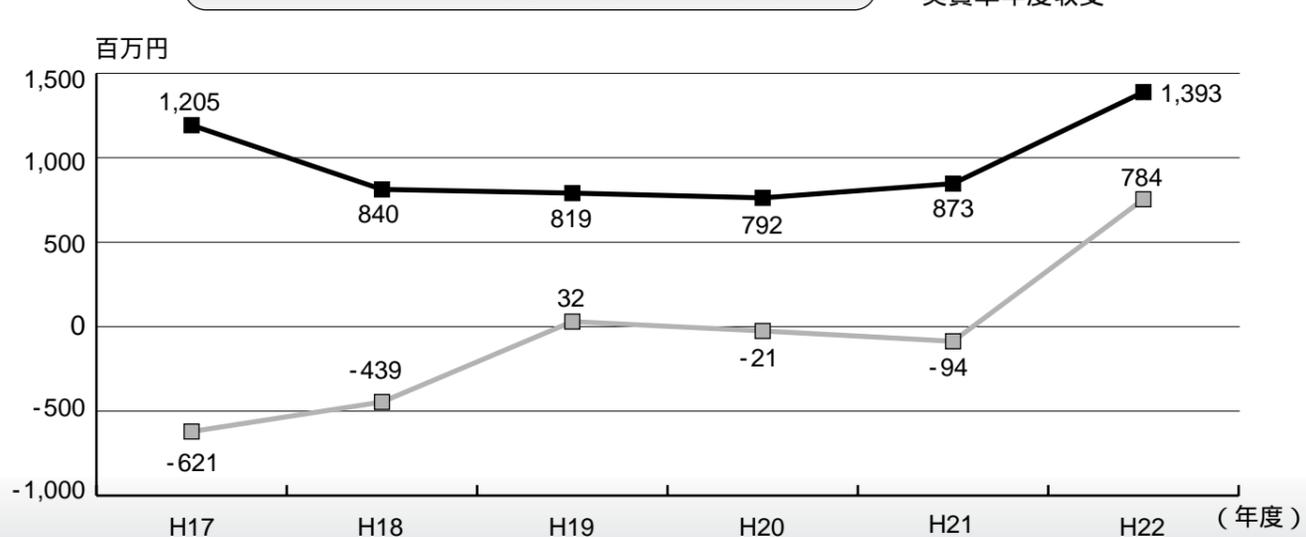
今後も安定した自主財源の確保を図り、水準の高い住民サービスを提供できるように努めていきます。



歳入・歳出総額の推移



実質収支・実質単年度収支の推移



財政用語ミニ事典

市税
市民が納める税金
普通税 一般的な経費に
使われる税金(市民税・
固定資産税など)
目的税 使用目的が決ま
っている税金(都市計画税・
入湯税など)

地方交付税
国が国税から、市町村の
行財政状況に応じて地方
自治体に配分するお金

市債 市の借金
国・県支出金
国や県からの補助金・負
担金・委託金

譲与税・交付金
国や県が税金として集めて
市町村に譲与・交付する
収入(自動車重量税、税、
地方消費税交付金、自動
車取得税交付金など)

臨時財政対策債
国の財源不足により、普
通交付税の替わりに発行
する市債(後年、普
通交付税が普通交付
税に算入される)



歳出

にぎわい・やすらぎ・きらめきのある
まちづくりに向け314億円が使われました！

歳出の決算状況を目的別で見ると、民生費が最も多く支出した科目で、子ども手当などの児童福祉事業や生活保護などの社会保障事業を行いました。決算額は90億8,100万円となり、前年度より8億円増加しました。

衛生費は、境川浄水場建設事業に伴う一般会計からの出資や子どもの予防接種事業を拡充して行いました。決算額は25億5,000万円となり、前年度より5億7,000万円増加しました。

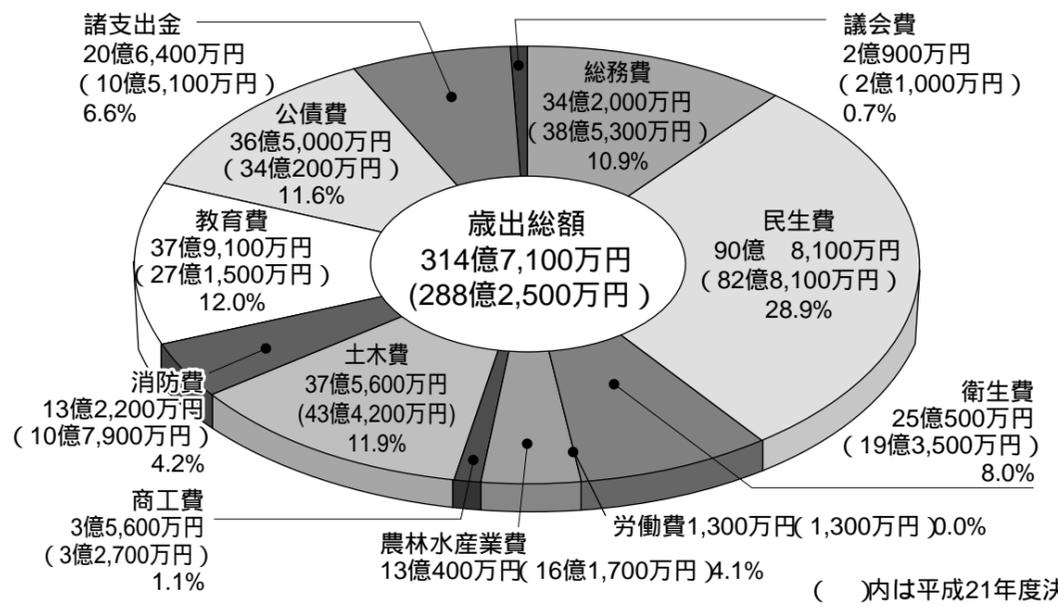
総務費は、統計調査や選挙事務、戸籍事務などを行いました。平成20・21年度に行われた定額給付金事業の終了により事業費は縮小されました。決算額は34億2,000万円となり、前年度より4億3,300万円減額しました。

公債費は、臨時財政対策債及び合併特例債の元利償還金が増額となりました。決算額は36億5,000万円となり、前年度より2億4,800万円増加しました。

諸支出金は、将来の財源確保のために公共施設整備等基金、減債基金及び財政調整基金などの積み立てを行いました。

土木費は、道路の新設改良事業や石和温泉駅周辺整備事業、公園維持管理事業を行いました。

一方、石和駅前区画整理事業及びリニア関連事業は縮小されました。決算額は37億5,600万円となり、前年度より5億8,600万円増加しました。



歳出の総額が314億7,100万円(288億2,500万円)と、前年度より8億2,600万円(2.6%)増加しました。そのうち、民生費が最も多く、28.9%を占めています。民生費は、児童福祉、生活困窮者、高齢者、児童、心身障がい者等に對して行っている様々な支援に要する経費などです。

衛生費は、境川浄水場建設事業に伴う一般会計からの出資や子どもの予防接種事業を拡充して行いました。決算額は25億5,000万円となり、前年度より5億7,000万円増加しました。

総務費は、統計調査や選挙事務、戸籍事務などを行いました。平成20・21年度に行われた定額給付金事業の終了により事業費は縮小されました。決算額は34億2,000万円となり、前年度より4億3,300万円減額しました。

公債費は、臨時財政対策債及び合併特例債の元利償還金が増額となりました。決算額は36億5,000万円となり、前年度より2億4,800万円増加しました。

諸支出金は、将来の財源確保のために公共施設整備等基金、減債基金及び財政調整基金などの積み立てを行いました。

土木費は、道路の新設改良事業や石和温泉駅周辺整備事業、公園維持管理事業を行いました。

一方、石和駅前区画整理事業及びリニア関連事業は縮小されました。決算額は37億5,600万円となり、前年度より5億8,600万円増加しました。

性質別決算の状況

ここでは歳出した経費を性質別に分類して見てみましょう。

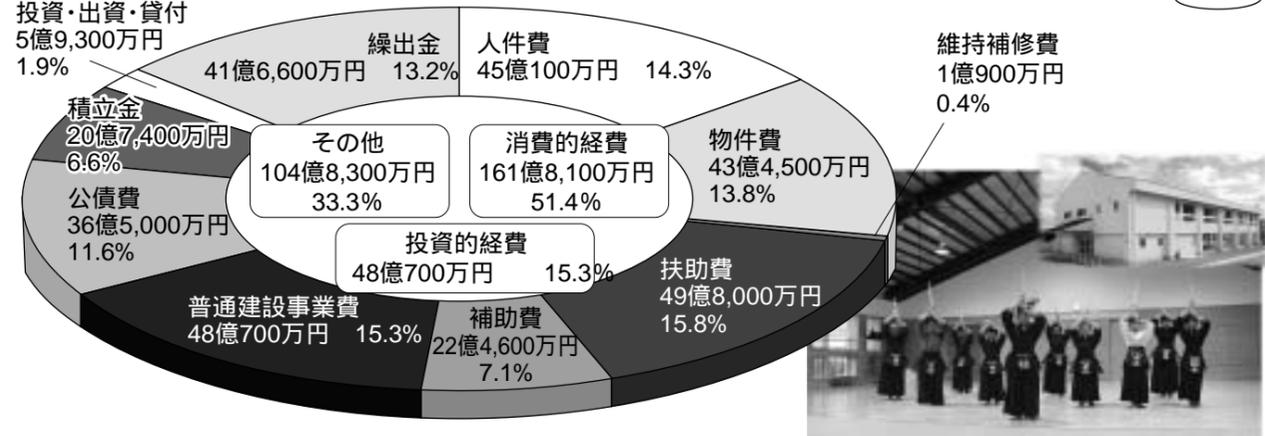
扶助費 決算額は49億8,000万円です。子ども手当制度の導入もあり前年度より10億2,300万円増加しました。少子高齢化社会が進みますので、年々増加傾向にあります。

普通建設事業費 決算額は48億7,000万円となりました。新市の基盤整備のため、積極的に合併特例債を活用し事業を行っています。今後、学校等の耐震化や道路整備・浄水場建設等のインフラ整備が予定されていますので、合併特例期間内は高額の推移を考えると考えられます。

人件費 決算額は45億1,000万円となりました。前年度は最も構成比が高い科目でしたが、職員数の減少及び給与改定により2億3,000万円減少しました。市では職員定数適正化計画に基づき、さらに職員数を削減し、「小さな市役所」の実現を図っていきます。

物件費 決算額は43億4,500万円となりました。指定管理者制度の導入や地域活性化交付金事業を実施しました。行政改革の一層の推進により、コストの削減を図っていかねばならない科目です。

緑出金 決算額は41億6,600万円となり、前年度より8億円増加しました。国民健康保険特別会計への繰り出しが減少したため全体でも前年度より減少しています。



性質別の構成比の推移

| | 人件費 | 物件費 | 扶助費 | 補助費 | 普通建設事業費 | 公債費 | 緑出金 | その他 |
|--------|------|------|------|------|---------|------|------|-----|
| 平成22年度 | 14.3 | 13.8 | 15.8 | 7.1 | 15.3 | 11.6 | 13.2 | 8.9 |
| 平成21年度 | 16.4 | 14.9 | 13.7 | 7.8 | 15.9 | 11.8 | 15.2 | 4.3 |
| 平成20年度 | 16.8 | 14.5 | 12.7 | 10.4 | 11.3 | 14.5 | 13.9 | 5.9 |

単位: %

特別会計決算

| | 歳入 | 歳出 |
|-------------------------|--|-----------------------------------|
| 国民健康保険特別会計 | 81億5,693万円 | 78億3,283万円 |
| 老人保健特別会計 | 267万円 | 267万円 |
| 介護保険特別会計 | 46億1,264万円 | 45億6,442万円 |
| 介護サービス特別会計 | 1,726万円 | 1,400万円 |
| 後期高齢者医療特別会計 | 11億3,157万円 | 11億2,915万円 |
| 公共下水道特別会計 | 29億516万円 | 28億1,685万円 |
| 農業集落排水特別会計 | 6,518万円 | 6,196万円 |
| 簡易水道特別会計 | 7億829万円 | 6億5,325万円 |
| 恩賜県有財産保護財産区管理会(9特別会計合計) | 4,639万円 | 446万円 |
| 水道事業会計 | (収益的収入)11億1,293万円 (資本的収入)15億5,237万円 | (収益的支出)11億69万円 (資本的支出)16億928万円 |
| 春日居地区温泉給湯事業会計 | (収益的収入)6,963万円 (資本的収入)0円 | (収益的支出)6,576万円 (資本的支出)1,230万円 |

財服用語ミニ事典

合併特例債とは？

合併した市町村が、まちづくり推進のため新市建設計画に基づいて行う事業や基金の積立てに要する経費について、合併当年度及びその後10年間に限り、借り入れることのできる地方債のことをいいます。

事業費のおおむね95%を借り入れることができ、後年その償還金（元金と利子）の70%が普通交付税で措置されます。

合併特例債は次のような事業が該当となります。
 道路・橋梁整備などの合併町村相互の交流や連携を円滑にする事業
 未整備地区への施設整備など合併町村間の均衡ある発展に資する事業
 現存する類似の目的を有する施設を統合する事業
 新市の地域振興等のために設けられる基金の積み立て

境川浄水場建設事業

借入額 5億1,900万円



境川浄水場

境川・八代・石和地区への安定した給水を実施するとともに、災害時においても清潔な水の供給が期待できます。

消防団施設整備事業

借入額 7,010万円

各地区の消防団施設の整備を行っています。老朽化した詰所の建替や車両等の購入、また耐震性貯水槽の設置も行いました。



一宮分団第18部詰所と小型動力ポンプ付軽積載車（一宮町金沢）

道路新設改良事業

借入額 2億4,250万円

市道21路線において道路新設及び拡幅改良を行いました。合併特例債を活用して行う道路改良事業は旧町村間を結ぶ幹線道路を中心に整備しています。



防災行政無線整備事業

借入額 2億4,000万円

災害時などに市民のみなさまの生命・財産を守るための防災無線のデジタル統合化を進めています。



笛吹市役所南館4階 防災無線指令室

農業基盤整備事業

借入額 1億6,510万円

農道や水路の整備を毎年計画的に行っています。



市内農道整備（春日居町地内）

私立保育園緊急整備事業

借入額 8,580万円

一宮・八代・わかば保育園の建替・改修等に要する経費に補助を行いました。



新しくなったわかば保育園

一宮学校給食共同調理場建設事業

借入額 5億6,790万円

一宮地内の小中学校を共同調理場方式とし、効率的で衛生的な学校給食を児童・生徒に提供することができるようになりました。



一宮学校給食共同調理場

合併特例債の発行額の推移

（単位：百万円）

| | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 借入合計 |
|-----------------------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|
| 福祉関係（保育所・学童施設） | 51.5 | | 86.4 | | 214.8 | 88.0 | 440.7 |
| 農林水産業関係（農道整備等） | 188.6 | 160.6 | 266.4 | 308.7 | 395.3 | 393.2 | 1,712.8 |
| 土木関係（道路・水路整備・都市計画事業等） | 392.4 | 399.1 | 355.9 | 287.0 | 554.0 | 333.4 | 2,321.8 |
| 消防・防災関係（消防団施設・防災無線） | 46.2 | 42.6 | 24.4 | 49.5 | 97.9 | 311.8 | 572.4 |
| 教育関係（小中学校施設） | | | 57.2 | | 27.6 | 633.6 | 718.4 |
| 保健衛生関係（浄水場出資債） | | | | 9.4 | 19.0 | 548.8 | 577.2 |
| 総務関係（庁舎等整備） | | | 505.4 | | | | 505.4 |
| 基金（地域振興基金） | | 950.0 | 950.0 | 950.0 | 835.0 | | 3,685.0 |
| 借入総額（年度別） | 678.7 | 1,552.3 | 2,245.7 | 1,604.6 | 2,143.6 | 2,308.8 | 10,533.7 |

ふえふき家の家計簿(平成22年度)

| 支出 | | | | 収入 | | | |
|--------------------|-----|---------|---------|--------------------|-----|----------|---------|
| ふえふき家の家計簿 ← 一般会計決算 | | | | ふえふき家の家計簿 ← 一般会計決算 | | | |
| 支出の内訳 | | 性質別歳出 | | 収入の内訳 | | 歳入内訳 | |
| | | | 昨年比 | | | | 昨年比 |
| A 食費 | 83 | 人件費 | 45 -2 | 給与収入 | 328 | 市税・地方交付税 | 183 +10 |
| B 保険・医療・税金 | 92 | 扶助費 | 50 +11 | パート収入 | 23 | 譲与税・交付金 | 13 0 |
| C 住宅ローン返済 | 67 | 公債費 | 37 +3 | 住宅ローン借入 | 86 | 市債 | 48 +10 |
| D 光熱水費、衣服 | | | | 昨年からの繰越 | 28 | 繰越金 | 16 +7 |
| 住居、教育 | 80 | 物件費 | 43 0 | 貯金利子など | 23 | その他 | 13 -3 |
| E 家の改築 | 89 | 普通建設事業費 | 48 +2 | 家の改築援助など | 112 | 国県支出金 | 62 +8 |
| F 電化製品の修理 | 2 | 維持補修費 | 1 0 | (祖父母からの援助) | | | |
| G お父さんと長女のこづかい | 41 | 補助費 | 22 -1 | 収入合計 | 600 | 歳入合計 | 335 +32 |
| H 長男への仕送り | 77 | 繰出金 | 42 -2 | (万円) | | (億円) | |
| I 定期貯金 | 38 | 積立金 | 21 +10 | | | | |
| J その他雑費 | 11 | 投資・出資 | 6 +6 | | | | |
| 支出合計 | 580 | 歳出合計 | 315 +27 | | | | |
| (万円) | | (億円) | | | | | |

平成22年度国民生活基礎調査を参考に総収入600万円としました。

お母さん、去年は食費(人件費)は節約したけど、医療費(扶助費)が急激に増えたね。

そうなのよ~! おじいちゃんたちからの援助(国・県支出金)がなければ、我が家の家計は相変わらずきびしいわ。

家族みんなで、健康には注意しないとね!

これからは、光熱水費や衣服の購入(物件費)も切りつめたいのよ~ みんな協力してね。

僕はバイトしたりして仕送り(繰出金)を抑えて、やりくりしてるんだよ...

そうね...。とても助かってるわ!

でも将来的には車も買い替えたいしなあ~

私だって来年は大学だから貯金(積立金)はたくさんしておいてね!

子どもたちにもお金がかかるし、ローンの返済(公債費)も増えるから、一家の大黒柱として頑張って働かないとな!



祖父 祖母



ふえふき家の家計簿

笛吹市の一般会計の決算をわかりやすくするために、ふえふき家の家計にたとえて紹介します。

お父さんの給与収入 328万円
市税 市税
市民のみなさんや会社から市に納めていただいた税金
地方交付税
自治体の財政状況に応じて国から交付されるお金
お母さんのパート収入 23万円
譲与税・交付金
国や県が徴収して市に交付されるお金
住宅ローン借入 86万円
市債(市の借金)
道路や学校などを整備したり、改修するための借金

1年間の総収入
【600万円の内訳】

ふえふき家の家族構成

父 母
県外の大学に通う長男
高校生の長女



昨年からの繰越 28万円
貯金利子など 23万円
おじいちゃん・おばあちゃんからの家の改築援助 112万円
国・県支出金
事業の経費の一部を国や県から支出されるお金

1年間の総支出
【580万円の内訳】

① 食費 83万円
人件費
市役所の職員の給与や各委員さんの報酬など
② 保険・医療・税金 92万円
扶助費
高齢者などへの助成・生活保護費や子ども手当など
(例) 生活扶助費・障害者医療費・子ども手当など
③ 住宅ローンの返済 67万円
公債費
市債(市の借金)の返済金
④ 光熱水費・衣服の購入・教育費など 80万円
物件費

消費的な性質をもつ経費で、賃金・旅費・需用費・委託料などの費用
⑤ 家の改築 89万円
普通建設事業費
道路・学校などの公共施設の新設や改修に必要な費用
⑥ 電化製品の修理 2万円
維持補修費
道路や学校などを修繕するための費用
⑦ お父さんと長女のこづかい 41万円
補助費
市内の団体活動への補助金や負担金など
⑧ 長男への仕送り 77万円
繰出金
一般会計から特別会計に支出する費用
(例) 国保特別会計繰出金・下水道特別会計繰出金など
⑨ 定期貯金 38万円
積立金
将来のために積み立てるお金
(例) 財政調整基金積立金
⑩ その他雑費 11万円
投資・出資
水道企業会計への出資金など

基金

笛吹市の基金（貯金）と 市債（借金）の状況

市債

笛吹市には現在、一般会計に15種類の基金があります。基金というのは家計でいうと預貯金のことです。決算剰余金が生じた場合などには基金に積み立てを行います。

また、臨時の出費や財源不足が見込まれる場合には取り崩しを行い、事業費に充当しています。

平成22年度につきましては、将来のための財源確保や市債償還のための財源として、財政調整基金、減債基金並びに公共施設整備等基金に約20億円の積み立てを行いました。

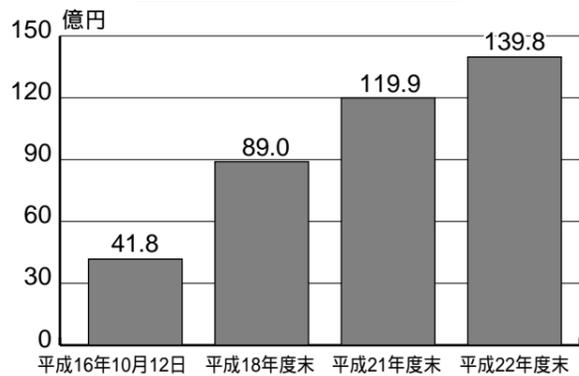
下の表は笛吹市が誕生した平成16年10月12日と旧芦川村が合併した平成18年度末、前年度（平成21年度）末そして平成22年度末の主な基金残高（預貯金残高）を示しています。

平成22年度末には笛吹市民（外国人を含む）の一人当たりの貯金額は19万3,718円となり、笛吹市誕生から比較すると約13万6,000円増加しています。

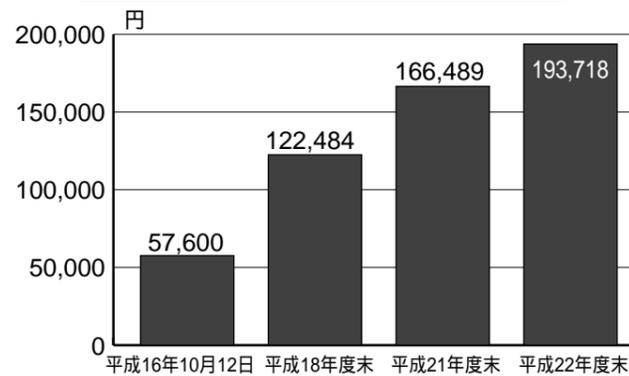
| | 平成16年10月12日 現在（笛吹市誕生） | 平成18年度末 （旧芦川村合併後） | 平成21年度末 | 平成22年度末 |
|-----------|--------------------------|----------------------|-------------|-------------|
| 財政調整基金 | 18億7,272万円 | 23億4,693万円 | 22億745万円 | 24億945万円 |
| 減債基金 | 3億5,022万円 | 4億7,771万円 | 9億8,067万円 | 14億8,327万円 |
| 公共施設整備等基金 | 1億7,893万円 | 20億6,024万円 | 19億2,641万円 | 32億2,336万円 |
| 地域振興基金 | 0 | 18億7,697万円 | 47億9,264万円 | 48億2,070万円 |
| その他特定目的基金 | 17億8,036万円 | 21億3,344万円 | 20億8,485万円 | 20億4,812万円 |
| 合計 | 41億8,223万円 | 88億9,529万円 | 119億9,202万円 | 139億8,490万円 |

合計は「現金」のみの残高です。ただし、地域振興基金については証券を含んでいます。土地開発基金につきましては定額運用基金であるため、基金総額には含んでいません。

基金残高の推移



市民一人あたりの貯金額



財政調整基金：急激な税の落ち込みや災害などに備えるための預貯金です。

減債基金：借金の返済のための財源を確保するための貯金です。

公共施設等整備基金：学校や道路・公園などの公共施設を整備するための貯金です。

地域振興基金：合併した市町村が、地域住民の連携の強化や地域振興のための貯金です。この貯金の原資は合併特例債の約38億円を活用して積み立てをしました。この貯金は借りた合併特例債の返済が終わったものから使うことができますが、利子については、毎年、ボランティア団体への助成金や、各地区の夏祭り、スポーツ大会への補助金として活用しています。

市債（地方債）とは、学校や公園・道路・上下水道などの公共施設の整備や災害復旧などの公共事業の財源として、複数年にわたり国や金融機関から借り入れる借金です。

市債を借り入れることを、「市債を起こす」「市債を発行する」とも言います。

市債には事業の内容に応じて様々な種類がありますが、平成13年度から国の財源不足による地方交付税の補てん措置として、臨時財政対策債の発行が認められています。

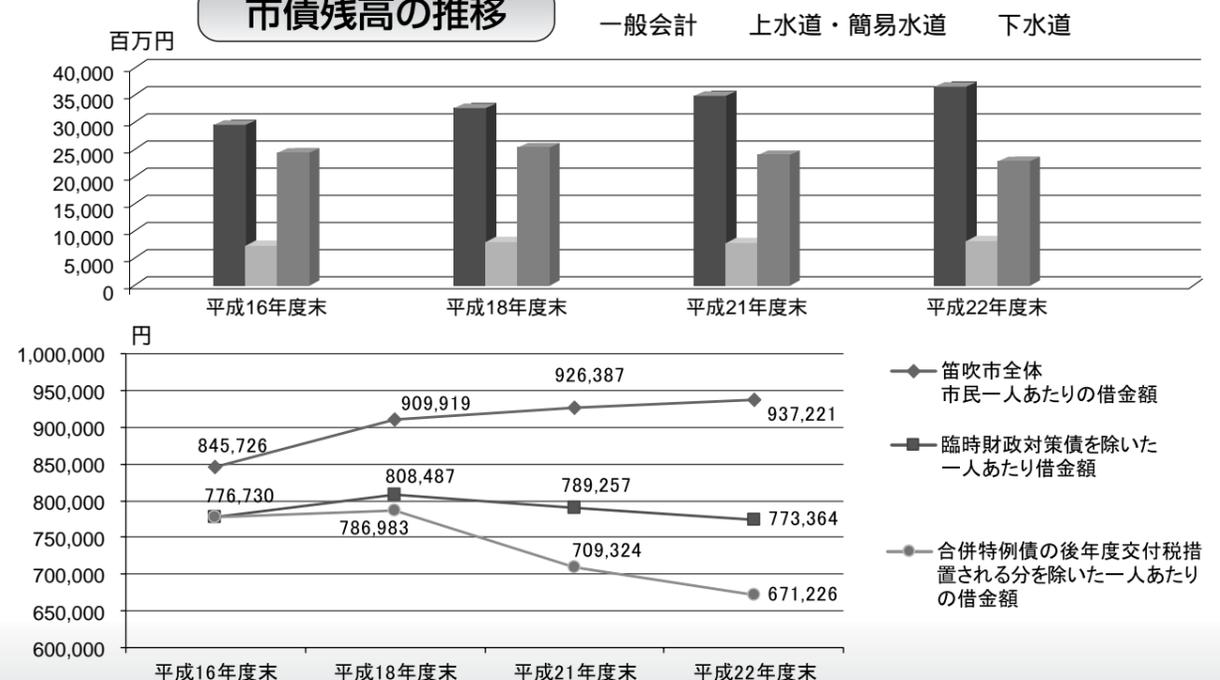
平成21年度末の市債残高は、一般会計分が約365億5,426万円、公営企業会計分（上下水道）が約311億560万円で、市全体では676億5,986万円となりますので、市民一人当たり換算すると93万7,221円を借金していることとなります。

市債が借金であることは間違いありませんが、元利償還金の一部もしくは全額が後年度において普通交付税に上乗せされて交付されます。このことにより各自治体とも、地方債の有効活用を行うことで、将来にわたり、健全財政の維持を図ることができます。

現在、本市の一般会計においては臨時財政対策債と合併特例債（6.7ページ参照）の発行が多くなっていますが、臨時財政対策債については借入額の全額が、また合併特例債については借入額の7割が後年度において普通交付税で措置されます。

| 会計名 | 平成16年度末 （笛吹市が誕生） | 平成18年度末 （旧芦川村が合併） | 平成21年度末 | 平成22年度末 |
|------------------|---------------------|----------------------|-------------|-------------|
| 一般会計 | 295億4,671万円 | 326億4,413万円 | 348億6,860万円 | 365億5,426万円 |
| うち合併特例債 | 0 | 21億6,313万円 | 69億8,183万円 | 85億7,650万円 |
| うち臨時財政対策債 | 50億960万円 | 73億6,645万円 | 98億7,806万円 | 118億2,914万円 |
| 公営企業会計 | 318億5,973万円 | 334億3,786万円 | 318億5,814万円 | 311億560万円 |
| 上水道・簡易水道 | 73億7,833万円 | 80億5,880万円 | 78億5,815万円 | 81億7,226万円 |
| 下水道 | 244億8,140万円 | 253億7,906万円 | 239億9,999万円 | 229億3,334万円 |
| 市債残高合計 | 614億644万円 | 660億8,199万円 | 667億2,674万円 | 676億5,986万円 |
| 臨時財政対策債を除く市債残高合計 | 563億9,684万円 | 587億1,554万円 | 568億4,868万円 | 558億3,072万円 |

市債残高の推移



笛吹市の財政健全化判断比率をお知らせします!

地方自治体（市町村等）の財政破たん（会社でいう倒産）を未然に防ぐために、平成19年度に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が施行されました。

この法律は、毎年全ての自治体に対して、財政の健全度を表す「健全化判断比率」の4つの指標と公営企業（上下水道事業など）の経営状況の健全度を示す資金不足比率を算定し、公表することを義務付けています。

平成22年度決算に基づく各比率の状況は次のとおりとなりました。

実質公債費比率につきましては、都市計画税の課税中止の影響等により昨年度より0.2%上昇し13.8%となりました。また、将来負担比率は、各種基金に積み立てを行いましたので、21.2%減少し88.4%となりました。平成22年度もすべての指標が健全の基準内となり、笛吹市の財政が健全であることがわかります。



| | H22笛吹市 健全化判断比率 | 早期健全化基準 基準値を超えると「財政健全化計画」を作らなければなりません。 | 財政再生基準 基準値を超えると「財政再生計画」を作らなければなりません。 |
|----------|-------------------|---|---|
| 実質赤字比率 | - | 12.47% | 20.0% |
| 連結実質赤字比率 | - | 17.47% | 35.0% |
| 実質公債費比率 | 13.8% | 25.0% | 35.0% |
| 将来負担比率 | 88.4% | 350.0% | |

「-」は、当該比率がない（赤字額がない）ことを示しています。
早期健全化基準は、自治体の財政規模により異なります。

健全化判断比率4指標



笛吹市の一般会計の赤字はどのくらい? **実質赤字比率** **赤字はありません**

「実質赤字比率」は、一般会計において、歳出に対する歳入の不足額（いわゆる赤字額）が財政規模に占める割合です。笛吹市の一般会計は黒字でしたので比率は算定されません。



笛吹市全体で赤字はどのくらい? **連結実質赤字比率** **赤字はありません**

「連結実質赤字比率」は、すべての会計の赤字と黒字を合算した赤字額が、財政規模に占める割合です。笛吹市では全会計が黒字でしたので比率は算定されません。



借金の返済などにどのくらい支払っているの? **実質公債費比率** **13.8%**

「実質公債費比率」は、一般会計が負担する公債費（借入金の返済額）や公営企業会計の公債費にあてる繰出金などが、財政規模を基本とした額に占める割合です。



今後どのくらいの負担が見込まれる? **将来負担比率** **88.4%**

「将来負担比率」は、一般会計の借入金（地方債）や契約などで支払いを約束したものが財政規模を基本とした額に占める割合です。この比率が高くなるほど、将来財政を圧迫する可能性が高くなります。

資金不足比率



公営企業の資金不足はどのくらい? **資金不足比率** **資金不足が発生している会計はありません**

「資金不足比率」は、公営企業会計の資金不足額が、公営企業の事業規模（通常の営業で見込まれる1年間の収入の額）に占める割合です。

■問合せ先 財政課 ☎ 055(262)4111

●発行/2011年11月1日 山梨県笛吹市役所

●編集/経営企画課・広聴広報担当

●所在地/〒406-8510 笛吹市石和町市部777番地 ☎ 055(262)4111

●URL <http://www.city.fuefuki.yamanashi.jp>